

京都ボランティア協会2018年度事業報告

目次:

<事業>

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1 【ボランティアコーディネート事業】 | …2ページ |
| 2 【援助・交流事業】 | …4ページ |
| 3 【広報事業】 | …6ページ |
| 4 【研修事業】 | …7ページ |
| 5 【研究事業】 | …8ページ |
| 6 【地域社会福祉推進事業】 | …8ページ |
| 7 【評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】 | …9ページ |
| 8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】 | …10ページ |

<組織・運営>

- | | |
|---------------|--------|
| 1 【組織・運営体制整備】 | …10ページ |
|---------------|--------|

<事業>

【1. ボランティアコーディネーター事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>ボランティアコーディネーターの実施</p> <p>在宅でのボランティア活動(協会内外)</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進。</p> <p>・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献。</p> <p>・ボランティア登録者継続と増加を推進。特に在宅生活者の依頼に応える、寄り添うボランティアの増加。</p> <p>・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。</p> <p>・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など)。</p>	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)を行う。</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等を実施する。</p>	<p>①ボランティア相談</p> <p>・ボランティア相談の実施→231件(2017年度107件、2016年度99件)</p> <p>・ボランティアしたい相談→47件 ※内新規登録者24人(内「わの会・京都」14人) なお、ボランティア登録者数→68人(2017年度47件、内新規登録者9人、なお、ボランティア登録者数→75人)(2016年度30件、内新規登録者10人、なお、ボランティア登録者数→66人)</p> <p>・ボランティアしてほしい相談→184件(内「わの会・京都」123件)(2017年度60件、2016年度69件) 相談の内、ボランティア紹介数146件(内「わの会・京都」122件)(2017年度31件、2016年度33件)、 内他団体紹介し完結した相談は13件(2017年度13件、2016年度14件) 今年度も地域資源を活用したが、少人数で相談業務にあたる時、更なる地域資源の活用が必要になると思われる。</p> <p>(別添資料参照)</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等の実施</p> <p>・「心の栄養支援ボランティア養成講座」介護予防・障害支援シリーズ 実施</p>	<p><ボランティア登録者増></p> <p>・「ボランティアしたい」新規相談者に対し、登録まで結び付けられるよう、相談後の状況を丁寧にフォローしていく必要がある。</p> <p>・ねこのてさろん等と合同で講座などを開催し、身近なボランティア活動を紹介し、登録者増に繋げていきたい。</p> <p>・すこしプラスがある、学びや出会いがあるというお得感のある講座や遊びの部分のある気軽さ、知り合いを増やしていく機会のあるものを開催していく。</p>

通年・継続

<p>③ボランティア登録者の増員と交流を図る。</p> <p>④ボランティアコーディネーター事業体制を整備する。</p> <p>⑤福祉ボランティアセンターとの連携を図る。</p> <p>⑥「きょうボラ」を発行(年4～5回)する。</p>	<p>③ボランティア登録者の増員と交流 ・ねこのてさろんにより、会員・登録ボランティアとの交流を実施した。→交流は図れたが、登録者の増員にはなかなか結びつかない。参加者を集め、新たなメンバー定着は今後も課題である。</p> <p>④ボランティアコーディネーター事業体制の整備 ・2016年度末は3人の事務局員(パートを含む)が他業務を兼任して担当していたが、パート職員の退職により、2017年度に引き続き2018年度末も2人の職員が他業務を兼務して担当している。</p> <p>⑤京都市福祉ボランティアセンターとの連携 ・広報の依頼を積極的に行っている。個別のボランティア相談は6件(2017年度6件、2016年度9件)であった。</p> <p>⑥「きょうボラ」年4回発行各1000枚「ボラタス」と共に発送。また講座等の機会を捉え配布している。「きょうボラ」を見られた方から直接ボランティア相談に結び付けることは難しい。他機関との協力体制が今後益々必要だと思われる。しかし地道に活動していくべきである。</p>	<p>・ボランティア登録会、あるいは相談会の開催。活動により「人と会う楽しさ」をボランティア依頼者や活動するボランティアの生の声を届ける機会を増やす。その場合の活動分野などは考察の必要あり。</p> <p>・ボランティア活動継続後の連絡等密にし活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会づくりについて考える。</p> <p>〈ボランティア依頼者増〉 ・高齢者や障がい者のボランティア依頼が多い。この状況を踏まえ対応すべきと考えるが、現状を知ることから始めていきたい。</p> <p>・ボランティアをされた方の意見を丁寧に聞くことにより状況把握に努める。</p> <p>※ボランティア登録者増とボランティア依頼者増は不離一体のものであり、双方の上記改善策に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・2016年度末は(パート職員1人を含む)事務局員3人で兼務していたが、現在は2人で兼務し対応しており、対策が必要と思われる。</p>
--	---	--

		⑦大学・地域等への事業紹介等広報活動を実施する。	⑦ワタキューは研修の機会を捉え紹介しているが活動になかなか結びつかない。発信し続けることには必要はある。なお、大学のボランティア活動の実情を把握する必要がある。	・菊浜学区の行事には積極的に参加しているが、一部の協会会員以外の方とは一朝一夕に関係は築けない。「第10回 きょうボラふれあい祭」には、地元の菊浜、崇仁(自治)、稚松、皆山連合会の後援をいただいた。
--	--	--------------------------	--	---

【2. 援助・交流事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
「第10回きょうボラふれあい祭」 2018.11.4開催	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなボランティアスタッフの人材発掘と育成。 ・ボランティア、関係団体、企業等との交流、連携推進。 ・新たな活動の創造・発信。 ・ボランティア中心に、祭準備段階から企画・運営を参加団体と実行委員会・事務局が連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアスタッフ等の募集と学習会を行う。(随時募集) ②実行委員会(企画・運営)を設置。 ③祭のホームページを管理する。 ④バザー物品、抽選物品を確保する。 ⑤広報の充実(パンフレット・ちらし他)を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「第10回きょうボラふれあい祭」を開催した。毎年開催される祭では変化がないとの意見もあったが、実行委員からの企画等の意見も少なく「祭」は大幅な変化は難しかった。新規プログラムとして、フリーマーケットおよび子ども対象の衣類や玩具の交換会・バザーを開催し、好評であった。継続することでみんなが集まれる交流の場としての意義があり「居場所」でもある。また、高齢者や障がい者と交流する機会でもある。手作りのイベントも委員だけでは難しく、多くのボランティアと関わるには職員・ボランティアの養成も必要である。 ②準備委員会1回、実行委員会5回および振り返りの会1回を開催した。 ③実行委員の広報担当者が作成した。 ④ちらし等を配布した。京都新聞五条販売所へ折り込みを依頼した。・京都社会福祉事業団へ記事の掲載を依頼した。 ⑤ボランティアが「ともちゃん」のキャラクターのポスター200枚・ちらし6,000枚を発注し、約20,000枚を当協会印刷した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候にも恵まれ、1,500人の来場者があった。アンケートより、参加団体・当日ボランティアは、「よかった」の声が多く、たくさんの方と交流ができたとの結果を得た。また市場・販売・ステージ・展示コーナーでは発表の場の提供ができた。来場数は天候に左右されるので、開催時期などは決めるのが非常に難しい。 ・当日参加のボランティアには、説明会の参加を義務づけて実行委員の負担を軽減したい。 ・ポスターを基盤にホームページに掲載し、集客のための広報を図った。 ・多くの市民から寄付が届いた。最近ネットショップに多くの方が参加しているので高価な物が集まらない。 ・参加団体等に20枚ずつ配布し、集客に協力をお願いした。
通年・継続	「きょうボラふれあい祭」企画内容変更、運営、作業ボランティア募集！！			

		<p>⑥福祉ボランティアフェスタ1参加団体として参加する。 大徳寺分室のウエスメンバーと若者ウエスのメンバーと連携で企画する。 模擬店を開店し、大好評。恒例のミニバザーも開催。</p> <p>⑦祭り記録・報告書を作成する。</p>	<p>⑥10月14日(月)は晴天で来場数も多かった。たこ飯100食や粕汁80食は早くに完売した。 ・出店のための打ち合わせをボランティアスタッフで数回開催した。</p> <p>⑦ボランティアの写真係を決めて、フォトストーリーを作成し、振り返りの会で発表した。</p>	<p>・協会ブースのボランティアの応援に17人参加した。バザー物品もたくさん集まり、総売上として約6万円あった。</p> <p>・フォトストーリーは、次回のボランティア説明会(募集)に活用する。</p>
<p>サロン活動(ボランティアビューロー活性化)</p> <p>「ねこのてさろん」の運営</p>	<p>・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流を通じた「居場所」や仲間づくり。</p> <p>・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。</p> <p>・お互い様精神の復活。</p> <p>「ねこのてさろん」企画・運営ボランティア募集</p>	<p>①単発活動企画の年間計画化を図る。</p> <p>②居場所機能の活性化(メンバー募集、仲間作り等)を図る。</p> <p>③活動グループ化、自主運営化を図る。</p> <p>④新規グループ作りを図る。</p>	<p>・パソコン・英会話・囲碁・朗読・リコーダー(音楽)・ヨガ・油絵などサロン活動での学びと教えるという交流で仲間づくりを楽しんでいる。参加者は高齢者が多く毎回楽しみにされている。</p> <p>・福祉ボランティアフェスタに出店するたこ飯と粕汁を予行演習として作った。</p> <p>・ビューロー行事はほぼ自主運営ができています。参加費が安価で希望者が多い。</p> <p>・「歌声広場」新規開催</p>	<p>・高齢者の参加が目立つ。ちよいボラなどに社会的不安がある参加者があり、ボランティアスタッフが対応している。</p> <p>・リーダーの担い手が少ない。</p> <p>・祭実行委員の一部・ウエスメンバーが「ねこのてさろん」の職員と一緒に企画し、応援してくれている。リーダーの担い手が少ない。</p> <p>・会員がリーダーになりボランティアビューローを活性化している。またメンタルな若者の自主的にリコーダー(縦笛)の講師を担当している。</p> <p>(別紙参照)</p>
<p>この事業は今年で5年目になる</p> <p>①京都市マーケット回収事業</p> <p>②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p>	<p>①・手軽に出来るボランティア、だれでも出来るエコ・リサイクル活動である京都市マーケット回収事業の継続。 ・地域住民への社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)として研究課題(京都市の助成金交付対象)。</p> <p>②ボランティアビューローのサロン事業の活動(認知症やひきこもりなどの予防等)。</p>	<p>①京都市マーケット回収(ゴミ減量推進活動) 京都市では、「ごみ量をピーク時の半分以上まで減らす」という目標を掲げている。 古紙・古着等は、地域の集団回収(コミュニティ回収)を奨励している。 減量・リサイクル(ウエス作業、バザーなど)の推進が特に重要な課題となっている。</p> <p>②地域の高齢者や障害者が手軽に来れるサロン(例:趣味・お話相手等)で認知症やひきこもりなどの予防を図る。</p>	<p>・月1回のウエス作業の実施。(材料不足のため、若者支援に優先的に材料を提供している。)</p>	<p>・ウエスの材料が不足している。</p>

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題
「ボランティア」他広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア」「きょうボラ」他媒体による情報提供と発信。 ・ホームページにて情報の公表を行い広く市民への広報活動。 	<p>「ボランティア」を発行(年4～5回)する。</p> <p>「きょうボラ」を発行(年4～5回)する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回(毎回各理事の巻頭言から始まり、主な事業のお知らせや報告など掲載)発行した。 ・ボランティアの記述するページを設け、思いやボランティアの啓発に挑戦できる機会をふやす。アンケート調査などの生の声を掲載した。 ・ボランティアの内容充実のため、2016年度から関係ボランティアグループの協力を得て、コラムなどグループ紹介を含め掲載継続中である。 ・現在、広報先には新聞社は基より、主に京都新聞社会福祉事業団、京・福祉研修情報ネット事業、京都市福祉ボランティアセンター「ボランティアーズ」、誕生日ありがとう運動友の会京都(折込)ほか依頼している。 ・協会の行事内容を分かりやすくするために広報スケジュール欄を設けている。 ・毎回の発行頁は8ページから10ページに定着している。 ・年4回発行した。「きょうボラ」を見ての「ボランティアしたい」の申し出が数件あったが、実際に利用希望者に繋がった件数は1件であった。
		<p>ホームページを管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでは、随時更新できるように編集プログラムが組まれている。イベント・新着情報が見やすいように工夫している。 ・カレンダー更新を行っている。 ・システム管理者(会員)を配置し、保守点検などもお願いしている。
		<p>講座等のちらしの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各講座のちらしを作成し、必要に応じてボランティアへの同封や関係団体等への配布等を行った。

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
<p>華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣</p>	<p>・身近に行われているボランティア活動を学び、活動を通し気づき、共感する心の育成。 ・身近な地域での福祉活動や、高齢者・障がい者・児童領域の現状に対する障害当事者や活動団体から学ぶ。 ・ボランティア養成講座の継続。</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 2px 5px;">後期・継続</div>	<p>高校1年生全員を対象に「総合華頂探究」という総合学習の中に位置づけられている授業である。(授業は年2日間である。) 内容は ①ボランティア活動の基本的精神や意義、取組みや課題を学び、ボランティア活動に親しむ。 ②認知症・障がい者や家族・地域が抱える生活課題を理解し、支援のための活動を当事者や支援団体から学び、体験や交流を通し、ボランティア活動への関心や動機づけに繋げ</p>	<p>・華頂高等学校の希望が当協会の事業目的と合致しないため、講師派遣を行なわなかった。(当協会の関係者であるキャラバンメイトの方と地元の地域包括支援センターが担当していくこととなった。)</p>
<p>高齢者・障がい者・こども分野講座実施</p>	<p>・各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会の増加。 ・各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体との連携の推進。 ・「心の栄養支援養成講座」連続シリーズ+障害編。</p> <p>※東京都では「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」として、研修が始まっています。 因みに研修期間 平成30年6月～31年3月までの全15回(40時間)</p>	<p>①ボランティア活動にあたって知識・技術を身につける講座・研修を開催する。 ②各領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。 ③ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動者の敷居を低くし、互いに支えあう活動を増やす。 ④地域生活で求められているボランティアを知る機会をつくる。 ⑤在宅生活を豊かにすることを手伝えるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくりをする。</p>	<p>・公開講座「人とう向き合うか～聴くことのカ～」 1、日時：平成31年1月19日(土) 13時～15時 2、場所：「ひと・まち交流館 京都」3階 第5会議室 3、講師：京都文教短期大学 教授 森川知史 先生 80人余りの参加者があり、アンケートの結果は好評であった。</p> <p>・高齢者・障害者分野の研修は、「心の栄養支援ボランティア養成講座」の5年目を迎え、連続シリーズ高齢者福祉・障害福祉に特化して回数を重ねてきた。講座の目的は、ボランティア活動の推進および参加を期待している。9回開催され各回(施設見学を除き)20人前後の参加者があった。アンケートによれば内容的には、「良かった。」という意見が多くみられた。</p> <p>・京都府でも「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」の研修が始まった。失語症サポーターの制度化の情報に注意していきたい。</p>

<p>ワタキューグループ新入社員研修(5/9～5/23) 福祉施設ボランティア体験講座の企画・講師派遣7回目</p>	<p>・ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>・ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と交流する機会をもつ。 ・社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ・ボランティア活動や講座の情報提供を発信する。</p>	<p>・第7回目となる新入社員(108人)研修であり、講師として当事者の参加を希望されているが当日の体調など調整が難しい点が多い。 ・施設のボランティア受け入れ後アンケートでは、新入社員の皆さんは、高齢者とのコミュニケーションのとり方など勉強になり、貴重な5日間であったとのこと。</p>	<p>「ボランティア」を研修に取り入れた効果をアンケートを活用し、教育現場・他企業にも発信し、ボランティアの普遍的な意義をアピールしていく必要性を感じた。 7年続いたワタキューグループの「ボランティア講座」は、効果は「大人になった」「定職率が高くなった」と企業の担当者からのメッセージがあった。</p>
<p>その他必要な講座の実施及び講師紹介・派遣の実施</p>	<p>・当協会が目的とする市民福祉増進の一環として、各領域で求められる研修等の講師の紹介・派遣。</p>	<p>①地域等への研修等の講師紹介・派遣を行う。</p>	<p>・京都市西京区役所からの「ボランティアについての講話」の講師派遣依頼に対応した。</p>	

【5. 研究事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
<p>ボランティア活動に関する調査研究</p>	<p>京都市内におけるボランティア活動状況の実態把握および「京都ボランティア白書(仮)」の発行。</p>	<p>「京都ボランティア白書(仮)」の発行にむけた調査・編集委員会を立ち上げ、ボランティア活動支援を行う諸団体等と発行にむけた検討会を行う。</p>	<p>・「京都ボランティア白書(仮)」の発行にむけた準備会を開催する。</p>

【6. 地域福祉推進事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
<p>災害支援活動</p>	<p>人的支援・物的支援等の後方支援。</p>	<p>①募金活動を行う。 ②事業開催時に募金箱を設置する。</p>	<p>・募金箱の設置などの地道な活動を続けた。 ・会員個人よりの京都府共同募金会への寄付(15,000円)があった。 ・「第10回きょうボラふれあい祭」抽選会売上金の約10%(30,000円)を京都府共同募金会に寄付した。</p>

【7. 評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題・改善策
地域密着型外部評価事業の充実	・質の高い評価。	①地域密着型外部評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。	①評価調査実績48件。(2017年度31件、2016年度36件) ・前年比154.8%(17件増) 今後に向けて、アンテナをはり、新規事業所へのアプローチ活動を強化していく。又、過去調査を実施した事業所へのアプローチを行っていく。 (開設する事業所の情報を早くキャッチしてアプローチに努めると同時に過去の受審調査機関及び受審回数推移などを見極めてシェアアップを図る。) ・外部評価事業の事業内容の見極めが必要。(色んな事業を手掛けている事業所の情報確保する事によるシェアアップ。) ・主任調査員(現在5名)の育成が急務である。また調査員の高齢化対策も今後の課題である。 ・多数の事業所を運営する法人・企業に対して協会関係者が一体となって受審の獲得を目指す。
介護サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価。	①介護サービス第三者評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。	①評価調査実績13件。(2017年度16件、2016年度17件) ・2018年度の最終結果ではないが、1月17日に実施されたネットワーク会議での府社協からの情報によると、受診事業所は、2017年度は前年と比較し約2.8%減。(2017年249件、2018年242件) 当協会の第三者評価調査においては、介護サービスは前年度と比較して3件減だが、福祉サービスは10件で、前年度と比較すると6件増であった。 ・受診率の高い特養ホーム、デイサービスに対して受診の周期(3年に一度受診のケースが多い)をリサーチした上でアプローチをかける。 ・外部評価と同様に多数の事業所を運営する法人・企業に対して協会関係者が一体となって受診の獲得を目指す。
福祉サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価。	①介護サービス第三者評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。	①評価調査実績10件。(2017年度4件、2016年度13件)
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制を整備する。	

【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
企業・労働組合との協働と交流	・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。	①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画を図る。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ③ボランティア活動や講座の情報を提供する。	・「第10回きょうボラふれあい祭」に社会人(協賛団体など)のボランティア活動の参加があった。

<組織・運営>

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
組織基盤の強化	・会員増員・確保に取組み組織基盤の強化。 (賛助会員の拡大)	①会員拡大委員会の設置を検討する。 ②イベント等参加団体・参加者への会員案内・勧誘を行う。 ③各新聞社・関係団体の広報媒体を活用する。 ④理事、会員との交流の機会を設ける。	①会員数214人、13団体。2018年度 入会者27人+2団体、退会者15人。(2017年度 会員数202人、11団体。入会者11人、退会者23人+2団体。) ・会員拡大委員会の内容及び設置についての再検討が必要である。 ②イベント等で団体・グループ・会員案内を配布した。会員から会員への声かけの効果が大きいのではないかと考えられる。会員への声かけは事務局からイベントごとに発信することが、効果があると思われる。 ③京都市福祉ボランティアセンター(ボランティアーズ)・福祉情報ネット・新聞社・関係団体の広報媒体を活用した。イベント・講座案内などを京都新聞社や京都新聞社会福祉事業団などに依頼し、掲載してもらった。 ④「第10回きょうボラふれあい祭」での理事の出席は7人であった。実行委員会や振り返りの会など、行事にはできる限り出席を望みたい。

<p>運営体制の整備</p>	<p>・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築き、運営体制の整備。</p>	<p>①一般社団法人移行後の公益事業の活性化を図る。</p> <p>②事務局体制の整備(人員の補強)を図る。</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携強化を図る。</p> <p>④ボランティアスタッフ研修会を実施する。</p>	<p>①一般社団法人化認定を受けて6年経過、公益目的支出計画書の毎年提出が義務付けられている。 公益目的財産支出計画によると4年間で818万円を支出しなければならない。(延長する場合は、京都府に再申請※公益目的支出計画実施報告書参照) 2018年度は公益目的支出561万円の支出があった。 公益目的財産を支出しながら、収益事業の利益を協会の財産として(運営費)確保することが重要である。 公益事業の進展を図り、新事業の開発が不可欠である。</p> <p>②公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主に占めている→主な経費となっている。 公益事業の印刷費・通信費などは京都市福祉ボランティアセンターが負担している。 会員の中からボランティア事務局スタッフを採用し、長時間のボランティアビューローの管理にご協力を頂いた。 財政の安定化を図り、事業方針を確定し、事業の充実を図ることが重要であると同時に、事務のコストダウン・効率化をはかることが必要である。 但、(パート職員を含む)事務局員が、2016年度末の4人から3人に減少しており、また、最低賃金も上昇(過去4年で100円アップ)したことから、種々の対策が必要と考えられる。</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流の場が得にくかったが、「第10回きょうボラふれあい祭」実行委員会で意見交換が行えることもあった。</p> <p>④「心の栄養支援ボランティア養成講座」の開催の情報など、広くボランティア・一般の方に情報機関(新聞など)で広報している。</p>
		<p>⑤評価事業の管理・運営体制を整備する。</p>	<p>⑤(【7. 評価・調査を通じ社会福祉を推進する事業】参照)</p>
<p>ボランティアビューロー・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営</p>	<p>・有効な管理運営及び友好的で開放的な場の構築。</p>	<p>①利用状況を把握・管理する。</p>	<p>・誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。 当協会事業(ねこのてさろん・ボランタス等発送業務・評価事業の審査会や企画運営委員会等)も利用している。 他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 2018年度利用者人数:のべ3,433人(2017年度は3,308人、2016年度は3,253人)。</p> <p>・ボランティアビューローの開室時間が、午前9時から午後9時半(12時間半)の長時間に及ぶため、2018年度も会員の中からボランティア事務局スタッフを依頼し、主にボランティアビューローの管理やイベント時などのお手伝いをお願いしている。 ・京都市福祉ボランティアセンターの夜間業務のパート職員は、ボランティアセンターの業務以外にも協会事務局の庶務作業も担っている。</p>

		②広報物を掲示・整理する。 ③ボランティアビューロー活性化事業を促進する。	②広報物の展示の呼びかけを行い、また、ボランティアの協力も得て整理を心がけている。 ③お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用され、当協会事業(ねこのてさろん・ポランタス等発送業務・評価事業の審査会や企画運営委員会等)も利用しているが、他の団体一般にも声をかけさらに輪を広げたい。(再掲)
財源の確保	・財源確保による安定的事業運営。	①助成金を確保する。 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘を行う。	①京都府共同募金会、幸せの黄色いレシートキャンペーン、京都新聞社会福祉事業団、京都生命保険協会、国際ソロプチミスト京都、会員、一般等からの寄付あり。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。

寄付者名(敬称略) 一般寄付

安倍隆二
安田行雄
安田育子
ボラ基クラブ
かみふうせん
ウエスマンバー

鎌田松代
間哲郎
丸清木材
岩佐敏子
古沢千歳
黒田知子

山崎孝江
山本賢治
上田充子
嶽山好男
竹中郁子
藤本守

内藤雅子
名賀亨
林順子
歌声広場
石田保険事務所
匿名2名

指定寄付

京都府共同募金会
幸せの黄色いレシートキャンペーン
京都新聞社会福祉事業団
生命保険協会 京都府支部
国際ソロプチミスト京都